

【4】つまる音の学習

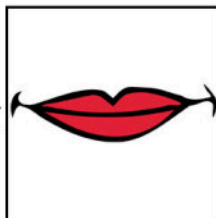
つまる音とは「小さい〈つ〉」のこと。正式には促音と言います。小さい〈つ〉が書けない子、ぬけてしまう子は、けっこう多いです。そういう子に「小さい〈つ〉が抜けているよ」と赤ペンで直しても、同じ間違いを繰り返すことが多いです。なぜかという、そもそも〈つまる音〉を感じることができていない子たちが結構いるからです。

小さい〈つ〉の場所がわからない子に、「手を叩いて考えてごらん」という声かけをする先生がいます。でもね、〈どこでつまっているか〉意識できない子はだいたい手もたたけないんです。そんな子にはどうしたらいいか？ 実は「大きな口でしっかり発音する」ことが大切なのです。

P4の口形、母音の指導をたっぷり行ったあと、次の話をします。

①「今日は〈あ・い・う・え・お〉とは違う口を教えます。この口です！」この絵を見せるとほとんどの子は「ん〜」と発音します。

「そうだね〈ん〉も同じ口だけど、今日は音なし！黙ってこの口！」ということで音はださない説明をします。

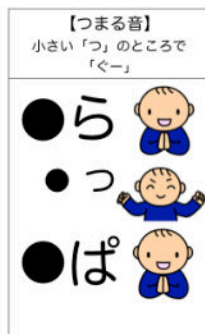


②「今日はこの口がどこに入るか見つけるよ〜」と確認をして、練習開始。試しに「らっぱ」を大きな口でゆっくり発音してみてください。

「ら・っ・ぱ」

どうですか？ 小さい〈つ〉のところで口がくっついたでしょ？ 子どもたち、これなら見つけられるんです！

③「口がくっついていたら手を〈ぐ〜〉にするんだよ」と教えて、口形を意識しながら一緒に手を叩いてみてください。



④「〈ぐ〜〉をしたところ。そこに小さい〈つ〉を書くんだよ」と教えて練習すると、小さい〈つ〉で苦労していた子も、見つけられるようになっていきます。それでも苦労する子には教師の口を見せながら、動作化するといいます。なれてくると自分の口でも見つけられるようになります。

⑤実はこれ、正しい口形の指導にはなっていません。小さい〈つ〉の後は破裂音がかかる言葉が多いので、たまたまこういう口になる、というもの。「スリッパ」「かっぱ」「コップ」などはこの口形になります。「トラック」「にっこり」などは、こんな口形は入りません。

でも、無理やりいれようと思ったらいれます（笑）この教え方が一番分かりやすいので、オススメです。この方法で〈つまる音〉を感じれるようになったら、あとは自然をできていくようになります。

⑥この口形の指導は、杉本陽子先生に教えてもらったです。僕はしばらくの間、「手を叩くこと」と「口を意識すること」を同時に教えていました。最近は「まずはしっかり発音。口を意識してから手」と順番を意識できるようになったことで、とても教えやすくなりました。正しい口形ではないけれど、初めはこの方法で教えるのがオススメです。

作文や日記の中で、小さい〈つ〉が書けない子がいたとしても、あんまり間違いを指摘しないようにしてあげてください。だって、「書く」「使いこなす」というのは一番難しい段階です。日記や作文では、「こんなことが伝えたかった」という気持ちを最大限に受け止めてあげてほしいです。

そして、しっかり読めることの指導を別の場面で確保していく。ルールを理解してもらうことが第一です。そのためには、後で紹介する「マッチングゲーム」や「ことば絵カード」で遊びながら、「つまる音」を意識できる経験をたっぷり積ませてあげてください。